

五省会ニュース

発行所
 特定医療法人五省会西能病院
 〒930-0884 富山市五福1130
 TEL (0764) 41-2481(代)
 発行人 西能 正一郎

五省会
 一言行に恥ぢるなかりしか
 一誠心に悔むなかりしか
 一努力に慥なるなかりしか
 一不精に怠るなかりしか

毎週水曜日の午前九時から正午まで

九月から脊椎外来を開設

辻陽雄富山医薬大名譽教授が担当

西能病院は、九月から整形外科で、脊椎外来を開設した。担当医は、辻陽雄富山医薬大名譽教授で、毎週水曜日の午前九時から正午まで、整形外科第一診察室で診察する。頸部、腰部の痛みで受診希望の方は整形外科外来看護婦に申し出てほしい。

偉大な力添えで充実した診療を

脊椎外来の開設にあたり、西能院長は辻名誉教授のプロフィールなどについて次のように語った。

辻先生は富山医薬大の整形外科教授を二十一年間お務めになり、本年三月、定年退官とされましたが、その間、脊椎外来をライフワークとされ、世界的にも高名であります。

当院は開設以来、腰痛治療を柱としてすすめてきましたが、今回、辻先生の偉大な力添えを受けて、脊椎外科の西能病院として充実した診療ができること



辻名誉教授

高質の医療活動に
 拍手

辻名誉教授の話
 九月から週半日(水曜)ですが、当院で診療する機会を仰せつかりました。入念緻密な

略歴

昭和三十三年三月、千葉大学医学部卒業、同三十八年二月、千葉大学大学院医学研究科修了、同年八月、千葉大学助手、医学部附属病院整形外科、同四十二年一月、同大学講師、同年四月、同大学院、医学研究科、同四十四年四月、同大学助教、同五十二年四月、同五十二年四月、同五十二年四月、同五十二年四月

厚生大臣から感謝状

西能病院が献血功労団体として、厚生大臣の感謝状を受賞した。その伝達式は、七月二十八日、富山県民小劇場・オルビス(マリエとやま七階)で開かれた献血運動推進富山大会の席上、病院長を代表して互助会の村井悟会長が原厚生部長から感謝状を受け取った。

病院長が献血功労団体として

西能病院が献血功労団体として、厚生大臣の感謝状を受賞した。その伝達式は、七月二十八日、富山県民小劇場・オルビス(マリエとやま七階)で開かれた献血運動推進富山大会の席上、病院長を代表して互助会の村井悟会長が原厚生部長から感謝状を受け取った。

お母さんの願いと祈り

西能 玄

八月、お盆すぎの水曜日、今日は手術日である。予定通り、午後一時半より最初の手術がはじめられた。本日の症例は、高校生の大腿骨骨折の修復固定術である。ハンドボールの練習で転倒し、骨折を起こし、救急車にて搬送入院となったが、受傷時の状況やレントゲン像より、疲労骨折か病的骨折か正確な診断の難しい症例であった。

手術は順調に進行し、麻酔時間も併せて二時間弱で予定通り終了した。麻酔医に術後の全身管理を任せ、私は手術室を出たところ、手術室の近くの廊下に一人の御婦人が床に正座している姿を見、一瞬足が止まった。職員

我が子の手術中、床に正座して合掌

期待の重大さを認識させられた思いである。私達医療人は、通常の業務として、患者さまの手術をさせて頂いてはいるが、手術を受ける患者さま本人やその家族の不安と心配は大変なもので、今回のお母さんのように、ただひたすら最良の結果を待ち、願うばかりである。

手術に限らず、毎日の診療においても同様であり、診療を行う私達医療人は、常に患者さま

の立場になって、きめ細かい説明と思いやりの医療が必要である。さらに、より良い医療技術を提供できるように、日頃のレベルアップが必要であり、これが医療人の最低限の責任であると考えている。

西能病院の理念、目標のもと、今一度、医療の原点を確認すべきであると教えられた。

五省会西能病院の理念「信頼と奉仕」

目 標

- 一、私たちはみなさまの健康の増進と疾病の予防に努めます。
- 一、私たちはみなさまのご希望を承り、それを基本に置いて説明と同意の下に、おもいよりの医療をすすめます。
- 一、私たちは医療の知識と技術の向上に努めよりよい医療を提供致します。

さらには献血運動の推進を

この度、西能病院が献血功労団体として厚生大臣から感謝状を受けたのは、職員の方々が献血の重要性を認識され、積極的に協力されたお陰であると、深く感謝しております。

私たちは、この受賞を機に、医療人として



厚生大臣の感謝状を受ける村井互助会会長(右)

西能病院、梨雲苑などを見学



上海から衛生訪日団

上海市普陀区人民政衛生訪日団六人(うち女性二人)が、七月二十七日、西能病院及び特別養護老人ホームの梨雲苑と、みわ苑、ドラッグフジイ小杉店を見学した。二十八日は立山方面を視察、二十九日から京都、大阪、東京を視察、製薬会社などを見学した。

富山県関係の視察、見学は、訪日メンバーに二人加わっている上海市普陀区中医院(普陀区老人病院を併設)と関係深い重松尚(カサマツ明希(佛社長)と藤井興三治(佛ドラックフジイ会長)の両氏が個人として招へいたもの。

西能病院や梨雲苑の

あすなろ

黒沢明監督が亡くなった。「世界のクロサワ」の映画についていろいろ語られており、それぞれ思い出さる。なかでも、年輩者に忘れられないのは、やはり「羅生門」だろう。この映画が日本初のベネチア映画祭グランプリを受賞したのは昭和二十六年だった。戦後、敗戦ですっかり自信をなくした日本人に、誇りを呼び戻した三つの事件がある。第一は水泳の古橋選手活躍。第二が湯川博士のノーベル賞受賞、もう一つが「羅生門」の受賞だった。この映画で、原作の芥川竜之介作「藪の中」をもう一度読み直さなければならなかった。旅の武士が胸を一突きされて殺された。いわば殺人事件だが、この真相が全く五里霧中。容疑者の盗賊これに犯された武士の新妻、さらにミコを使って死んだ武士の死霊を呼んで語らせるが、自分の都合のよいように語り、三人三様。死体をみつけた男や、旅ですれ違った法師に聞いても、どこまでウソか、本当かわからぬ。人間の口を使って語られることがいかに真相からほど遠いか、真実は所せんこの世には存在しない。これを、映画のラストシーンで、雨の羅生門にうづくまる下人(げにん)身分の卑せん(男)がつぶやいた言葉が耳に残る。「本当のことがいえないのが人間さ。人間ってやつは、自分自身にさえ白状しねえことが沢山あんな」



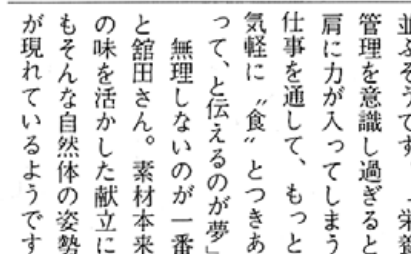
「森鷗外私論」は30冊以上あるシリーズもので、読み切れないのが悩み...

森鷗外の生き方に憧れています。大学時代、夏目漱石が好きな友人と、はるばる鷗外ファン...



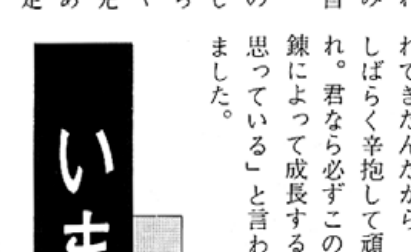
栄養管理は無理せず自然体で。市・三五は、料理教室...

食のコンサルタント。館田洋子さん。室や健康科学専門学校で講師として活躍...



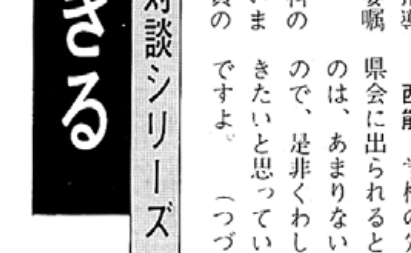
先輩のいじめに勉強で勝負。清水 勉強が勝負...

西能 附属の先輩の先生たちは、いじめの先生というより、驕をいっている気持ちだった...



西能 附属の先輩の先生たちは、いじめの先生というより、驕をいっている気持ちだった...

清水 勉強が勝負。清水 勉強が勝負...



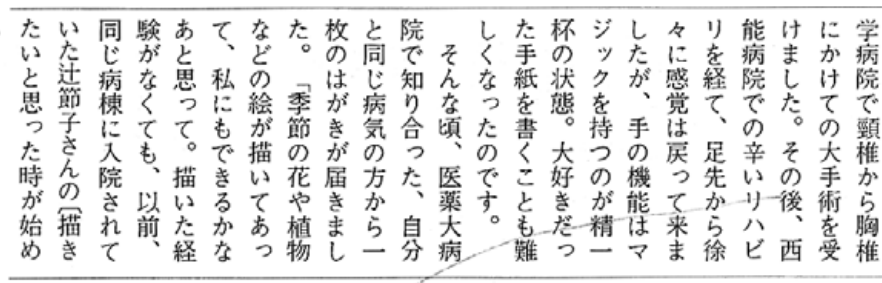
西能正一郎対談シリーズ。いまを生きている...

清水 勉強が勝負。清水 勉強が勝負...

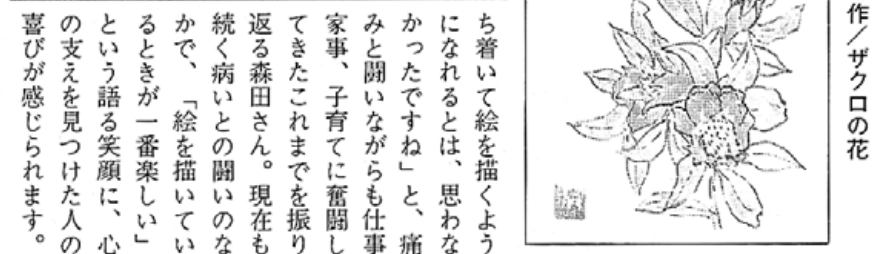
西能正一郎対談シリーズ。いまを生きている...



大地を踏む。闘病の日々を支える絵を描く喜び...



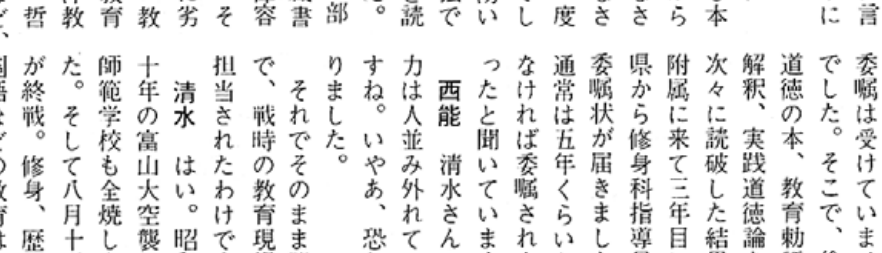
森田さん作/ザクロの花。学病院で頸椎から胸椎にかけての手術を受けた...



西能 附属の先輩の先生たちは、いじめの先生というより、驕をいっている気持ちだった...



西能 附属の先輩の先生たちは、いじめの先生というより、驕をいっている気持ちだった...



西能 附属の先輩の先生たちは、いじめの先生というより、驕をいっている気持ちだった...

中学生たちの職場体験実習



七月二十二日、富山市立呉羽中学校の二年女子生徒九人が、職場体験実習のため西能病院を訪ねた...



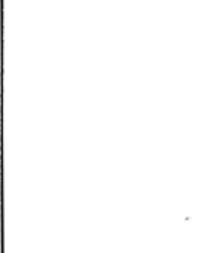
西能 附属の先輩の先生たちは、いじめの先生というより、驕をいっている気持ちだった...



西能 附属の先輩の先生たちは、いじめの先生というより、驕をいっている気持ちだった...



西能 附属の先輩の先生たちは、いじめの先生というより、驕をいっている気持ちだった...



西能 附属の先輩の先生たちは、いじめの先生というより、驕をいっている気持ちだった...

膝の痛みについて

変形性膝関節症とは。変形性膝関節症は、関節の軟骨が変性することによって起こる...

糖病

糖病はなぜ怖いのか。糖病は長期継続すると、網膜症や腎症、神経症などが現れてきます...

いまを生きている

西能正一郎対談シリーズ。いまを生きている...

附属小学校訓導として勉強で勝負

清水 勉強が勝負。清水 勉強が勝負...

西能正一郎対談シリーズ

西能 附属の先輩の先生たちは、いじめの先生というより、驕をいっている気持ちだった...

西能正一郎対談シリーズ

西能 附属の先輩の先生たちは、いじめの先生というより、驕をいっている気持ちだった...

西能正一郎対談シリーズ

西能 附属の先輩の先生たちは、いじめの先生というより、驕をいっている気持ちだった...

西能正一郎対談シリーズ

西能 附属の先輩の先生たちは、いじめの先生というより、驕をいっている気持ちだった...

西能正一郎対談シリーズ

西能 附属の先輩の先生たちは、いじめの先生というより、驕をいっている気持ちだった...

西能正一郎対談シリーズ

西能 附属の先輩の先生たちは、いじめの先生というより、驕をいっている気持ちだった...

西能正一郎対談シリーズ

西能 附属の先輩の先生たちは、いじめの先生というより、驕をいっている気持ちだった...

西能正一郎対談シリーズ

西能 附属の先輩の先生たちは、いじめの先生というより、驕をいっている気持ちだった...

西能正一郎対談シリーズ

西能 附属の先輩の先生たちは、いじめの先生というより、驕をいっている気持ちだった...

西能正一郎対談シリーズ

西能 附属の先輩の先生たちは、いじめの先生というより、驕をいっている気持ちだった...

西能正一郎対談シリーズ

西能 附属の先輩の先生たちは、いじめの先生というより、驕をいっている気持ちだった...

